

プール遊び

梅雨明けと同時に強い日差しが照りつけ、子どもたちは毎日プール遊びを楽しんでいます。初めは少し緊張気味だった子も少しずつ水に慣れ、この頃はお友達と一緒にプールに入れることが嬉しくて仕方のない様子です。プールの中で頬に水をつけたり、潜ったり、泳いだりできることが増え、自信へとつながっています。怪我や事故のないよう見守り、一緒に楽しんでいきたいと思います。

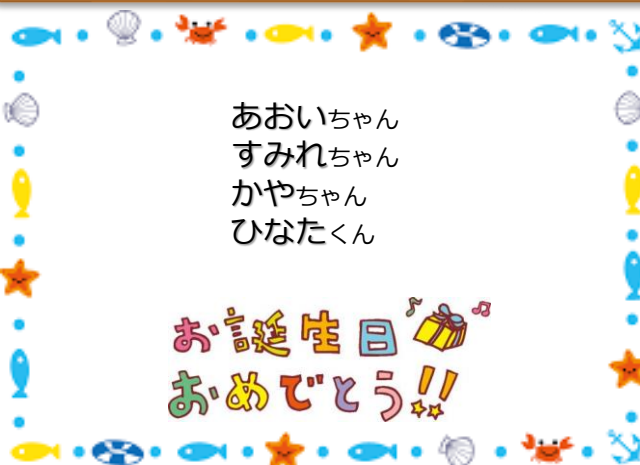


8月 行事予定

9日・23日(火)	体操の日
12日(金)	避難訓練
13日(土)~16日(火)	お盆
18日(木)	和太鼓教室
19日(金)	お誕生会・身体測定
26日(金)	プール終了

8月はお休みしても、欠席扱いにはなりません。

8月生まれのお友だち



運動会について

今年度の運動会は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、10月1日(土)に開催予定です。詳細が決まりましたら、お知らせいたします。



夏の体調管理について

暑いと食欲がなくなりがちです。夏を元気に乗り切るために、必ず朝食をとりましょう。バナナや食パン、おにぎりなど食べやすいものを一口食べるだけでも元気が出ます。また、外に出るときは必ず帽子をかぶるよう園児には声掛けしております。**園指定の帽子を忘れず**に持参してください。

ご確認ください

- 子供たちの大好きなプール遊び期間は**午前9:00までに登園**願います。
- 引き続き、爪切りや耳掃除などプール遊びに備えましょう(週に一度は爪のチェックをしてあげてください)。
- プール遊びは、**8月26日(金)で終了**となります。

おねがい

- 発熱のほか咳や鼻水・下痢などの症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。体調が優れない時は、無理せずご家庭での休養をお願いします。
- 気温が高い夏はいつも以上に体力を消耗します。早寝早起きを心掛け、バランスの良い食事を摂り元気に過ごしましょう。



8月の園だより

夏に流行る感染症

夏のウイルス性感染症の発症時期は5月から8月。今回は、手足口病やヘルパンギーナ、プール熱などウイルスが原因である感染症を中心に、夏の感染症の症状を紹介します。感染症は子供だけでなく大人も注意しましょう。

手足口病	ヘルパンギーナ	プール熱	とびひ
<ul style="list-style-type: none">◆主な原因ウイルス：コクサッキーA16、コクサッキーA10、エンテロウイルス71…原因であるウイルスは10種類以上ある◆症状など：手足の水疱と口内炎ができる夏風邪の一種。胃腸風邪ウイルスからくる少々の下痢の症状を伴う。初日から2日目に熱が出るが、それ以後熱は出ず、5日ほどで症状は回復する。	<ul style="list-style-type: none">◆主な原因ウイルス：原因ウイルスは多数あるといわれているが、主にコクサッキーA群だと考えられている◆症状など：高熱が長く続き、のどの奥に口内炎ができる特徴がある。予防接種はないので、毎年発症する子どももいる。	<ul style="list-style-type: none">◆主な原因ウイルス：アデノウイルス◆症状など：正式には「咽頭結膜熱」といい、7月から9月のプールに入る時期に流行ることから通称プール熱と呼ばれている。高熱を伴い、のどと目の両方に炎症を起こす。死亡例も報告されており、重症化する可能性が大きい病気。治った後もウイルスが咽頭や便からうつるケースが多い。	<ul style="list-style-type: none">◆とびひには、水疱性膿痂疹（すいほうせいのうかしん）「水疱」ができるものと痂皮性膿痂疹（かひせいのうかしん）「かさぶた」ができるものの2種類があります。とびひの多くは水疱性膿痂疹で黄色ブドウ球菌が原因となります。夏に発生することが多く、主に0～6歳の乳幼児に発症します。◆症状など：皮膚の一部に膿をもった水ぶくれ（膿疱（のうほう））ができます。かゆみを伴いますが、発熱はあまりありません。

家庭でできる「感染症予防対策」

- ◆外出先から帰ったときや食事前の手洗いを習慣づける。
- ◆体全体の免疫力を高めておくことも予防のポイントです。休養を十分にとり、栄養バランスがとれた食事をしましょう。
- ◆特に粘膜の材料となるたんぱく質や、免疫細胞を強化するビタミンA・C・E、腸を元気にする乳酸菌や食物繊維などを意識して摂りましょう。
- ◆日焼けをして肌が乾燥すると、免疫力の低下につながることも忘れずに。



今月も、最後までご覧いただきありがとうございました。